

【非肥満者のための個別保健指導事業】 提案書評価表

記載項目		評価基準	必須項目	配点
運営体制について	1	・保健指導の契約実績が豊富である。 ・特に非肥満者に対する保健指導の実績があることが望ましい。 ・保健指導に関連のある魅力的なPRが記載されている。	○	25
	2	・保健指導の業務統括者は常勤の保健医療専門職（医師、保健師、管理栄養士等）である。 ・本事業に従事する医師、保健師、管理栄養士を十分に有し、組織として本事業に必要な専門職を派遣する体制がある。 ・雇用関係にない専門職個人に委託する場合は、連携体制について具体的に記載されている。	○	35
	3	プライバシーマークまたはISMSを取得している。	○	10
	4	・1日に2会場実施の体制がとれることが望ましい。 ・1会場最低4人以上従事できる。申込状況により6人から8人体制がすみやかに取れる柔軟性がある。 ・実施可能曜日は平日以外に土曜日・日曜日・祝日のいずれかを含む。 ・17時半以降の時間帯の実施が可能である。	○	30
	5	・個別に仕切られたスペースの確保等、適切なプライバシーの配慮ができる。 ・受注者においてパーティションの用意が可能。	○	15
	6	・業務の実施にあたりトラブルが生じた場合に適切に対応できる。 ・統括責任者や発注者への連絡、報告体制が整っている。	○	20
	7	・複数の申込受付方法がある。 ・「電話」の申込受付時間は土曜日・日曜日・祝日及び18時以降の時間帯が可能である。 ・日時指定タイプや事業所調整タイプについて対応が可能である。 ・実施日の1週間前までの申込受付が可能である。実施日当日までの受入が可能である方が望ましい。 ・当日無断キャンセルした対象者に対し、電話等で連絡する体制がある。 ・予約者へのリマインドが可能である。	○	30
	8	組織として商品等の勧誘・販売等を行わないことを明確にし、保健指導実践者に教育指導、違反した場合の罰則規定の提示をしている。		5
保健指導について	9	・独自のアプリや保健指導ツールの使用、インセンティブの設定等、生活習慣の改善に有効と思われる魅力的なプログラムである。 ・特に食事指導については一般的な内容ではなく、視覚的に自身の食生活を振り返り、食生活改善を実践できる内容となっている。 ・申込から支援終了までの流れが具体的に示されており、支援回数や支援方法が適切である。	○	35
	10	・同一の保健指導従事者が最後まで支援可能である。 ・途中で保健指導従事者が変更する場合は、支援が途切れないよう適切に引継ぎが実施される。 ・初回面談後の継続指導は、利用者の利便性を図る目的で複数の実施方法（ICT面談・電話・メール・チャット等）での対応が可能である。		15
	11	・プログラムや使用媒体について、専門家による評価や助言を定期的に受けている。 ・評価者や評価時期が適切である。		15
	12	・事例に合った行動変容ステージや目的が設定されている。 ・事例の特性や行動変容ステージに沿った保健指導が記載されている。 ・使用媒体や教材は適切である。 ・食事指導が具体的であり実践しやすい内容となっている。	○	35

記載項目		評価基準	必須項目	配点
	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診の必要性を適切に説明し、受診勧奨ができる。</li> <li>・受診勧奨の実績がある。</li> </ul>	○	20
保健指導の客観的評価の実施について	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の保健指導マニュアルや教材が作成されている。</li> <li>・研修プログラムは、ロールプレイや事例検討等、知識の習得及び技術の向上のための実践的な内容となっている。</li> <li>・系統的な教育・研修計画に沿った人材育成が行われている。</li> </ul>	○	25
	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートは、保健指導実施前後の生活習慣に係る行動変容を評価できる内容となっている。</li> <li>・アンケートの実施方法は適切である。</li> </ul>	○	20
	16	保健指導に関する研究や質の向上のための最新の情報収集が行われている。		15
合計				350